短歌に親しむ (2)

栗木 京子

C　死に近き母に添寝のしんしんと遠田のかはづ天に聞ゆる

斎藤茂吉

生きる喜びを歌った晶子の歌に対し、茂吉のこの歌では死にゆく母を見つめています。一九一三（大正二）年五月、母危篤の知らせを受け、作者は東京から実家のある山形県に帰りました。母の看病をしていると、遠くの田から蛙の声が聞こえてきます。その声は、まるで天まで届くように感じられたのでした。「しんしんと」は夜がふけてゆく状況とともに、蛙の声が空に響く様子を表しています。母の死と向き合う悲しみを、ふるさとの大きな自然が包み込んでいます。

では、ここからは、今日の短歌を読んでみましょう。

D　鯨の世紀恐竜の世紀いづれにも戻れぬ地球の水仙の白

馬場あき子

（中略）

E　蛇行する川には蛇行の理由あり急げばいいってもんじゃないよと

俵 万智

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) Cの歌の説明として適当なものを二つ選びなさい。

ア 作者が東京から山形県の母のもとに帰る途上(とじょう)での情景がうたわれている。

イ 作者が山形県の実家で母の看病をしているときの情景がうたわれている。

ウ 「しんしんと」は、夜がふけていく状況や蛙の声が空に響く様子を表している。

エ 「しんしんと」は、夜がふけて静まりかえったふるさとの様子を表している。

〔　・　〕

(2) Dの歌の説明として適当なものを選びなさい。

ア 鯨の世紀は今の時代を表しており、恐竜の世紀は過去の時代を表している。

イ 水仙の白は、はるか昔の地球上に咲(さ)いていた花の美しさをうたったものである。

ウ 鯨の世紀恐竜の世紀といった大きな時間と、水仙の白という小さな時間が詠(よ)み込まれている。

〔　〕

(3) Eの歌の説明として適当なものを選びなさい。

ア 曲がりくねった川に、急ぐだけがいいわけではないということに気づかされている。

イ 寄り道をする川にむかって、まっすぐ進んだほうがよいのにと口語で呼びかけている。

ウ 蛇行する川のほうがむしろむだなく早く進めることを、文語を用いた表現で表している。

〔　〕

(4) C〜Eの中で、字余りのものを二つ選び、記号で答えなさい。

〔　・　〕

(5) C〜Eの中で、体言止めが用いられているものを選び、記号で答えなさい。

〔　〕